

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 金 在虎

昨年に引き続き、今年度も優秀教員に選出され、素直に嬉しいです。今年も新型コロナの感染予防のために対策をとりながら、対面方式で主に授業を行いました。久しぶりの対面授業となり、緊張するところもありましたが、やはり直接に反応を見ながら講義ができることで、学生の満足度と教員自身の達成感の面ではより効果的かと思います。今後は、感染対策をとりながら可能な限り対面講義で実施したいと思っています。

●日頃の教育に対する工夫

授業によっては、知識詰め込み型と参加型のどちらでしか効果が発揮しない科目もあると思いますが、私の場合、両方を上手く使って学生のモチベーションや学習能力を高めるような授業を試みています。個人的には一方的な演説型よりはコミュニケーション型が好きなので、常に学生さんと授業内容についてお話しております。

- ・授業が始まる前に学生さんと少しおしゃべりする。天気や話題ニュースなど、例えば、企業さんと打合せをする時に、いきなり仕事のお話より別の話題で盛り上げてからの方が良かった経験からの工夫です。
- ・前回の復習から始まり、次回の予告で終わる。
- ・授業中に演習問題を出して、その場で学んだ内容を復習させる。
- ・各チャプター(2~3 週間)で小テストを行い、再度復習をさせる。採点した結果物は学生さんに次の授業までにお渡しすることで、学生自身の理解度が確認できる。
- ・最後に講義室を出るようにし、その間に気軽に質問ができる状況を作る。

●今後の教育への抱負

以前アメリカで約2年間留学した時に、担当教授の授業を手伝ったことがあります。その日に学ぶ授業内容を事前にネットで公開し、学生さんに予習をさせ、授業当日はその内容と課題について4~5人グループ別で討論をして、発表を行うような内容でした。もちろん、日本とは教育環境や内容が異なることもあり、そのまま適用することは正直に難しいとは思いますが、授業中で楽しく自分の意見を述べる学生さんの姿が非常に印象的でした。今後は、学生さんが楽しめる授業内容と積極的に参加可能な授業づくりをして、私自身も楽しめる授業をしたいと思っています。